創業への心構えと準備を学びます！
「創業セミナー＆個別相談会」

東海村創業支援ネットワークでは、今年も創業セミナーを開催します。

「会社を立ち上げたい」、「立ち上げた事業を軌道に乗せたい」、「創業に興味があるけれど、どうしたら良いのか分からない」、「どんな支援が受けられるのか知りたい」など、創業に関するさまざまな疑問や質問にお答えします。

先輩創業者の事例紹介のほか、各専門機関による個別相談会も実施しますので、創業に興味がある方や創業初期の方は、この機会にぜひご参加ください。

日時▼２月10日（土）午後２時～４時30分（午後１時45分受け付け開始）
場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」
定員▼先着20人
参加費▼無料

申し込み▼事前に、専用フォーム（右の二次元コードからアクセス可）から申し込みください。

▲申込はこちら

問い合わせ▼日本政策金融公庫日立支店（☎0294-24-2451）、東海村創業支援室（☎212-5700）

ふるさと歴訪 ～歴史を再発見～

村松・石神駅間の乗合自動車

東海村文化財保護審議会委員 宮内 教男

明治33（１９００）年の「村松の大火」で類焼した村松山虚空蔵堂の再建事業が進み、大正６（１９１７）年に本堂・書院が整備されると、参拝者が増加し、交通手段の確保が地域の課題となりました。遠方から虚空蔵堂に参詣する人々は、石神駅（明治31（１８９８）年４月に開業）で下車し約４キロメートルの道のりを歩きました。平成23（２０１１）年に実施した真崎地区の聞き取り調査では「当時、初詣や十三詣りの時期になると、虚空蔵さんへの村道は多くの参拝者が行き交った。すれ違うのも大変な混雑で道路沿いの畑にまで参拝者の足跡が残っていた」との話を伺いました。「（村松および虚空蔵堂の）将来の発展は交通機関の完備に在り」として、虚空蔵堂住職・原智仙が石神駅から村松に至る村松軌道の敷設に取り組んだのも、多くの参拝者の輸送手段確保の一環でした。

大正９（１９２０）年９月、村松村宿の旅館梅原屋の主人・川又鉄太郎が、石神駅と村松山虚空蔵堂を結ぶ乗合自動車の営業を許可され、翌年９月にフォード社製18馬力７人乗りの自動車を購入しました。村松軌道の発起人に名を連ねる石神村舟石川の根本秀之介も、同時期に乗合自動車の営業運転を始めています。写真は根本家が購入したシボレー社製の自動車と推測され、運転手とみられる人物が「新さくらや」のはんてんを羽織っています。

【根本家のシボレー車】

大正12（１９２３）年３月に刊行された「茨城画報第一輯（しゅう）村松号」には「村松村へ行くには海岸線の石神停車場に下車し、其処より二拾四丁、其間自動車の便がある」と紹介されています。画報に掲載された根本自動車店の広告には「村松・石神間自動車、片道一回金五十銭、汽車発車毎に出ます」とあります。この年９月には、根本秀之介、川又鉄太郎、虚空蔵堂住職・原隆明の三者が「自働（動）車運転ニ付申合書」に署名しています。根本、川又の両者が、それぞれ所有する自動車１台を使って隔日で営業運転にあたり、村松宿の停留場は虚空蔵堂門前の「梅原屋及び新桜屋トノ中間ニ設置スルコト」などを申し合わせています。「根本自動車運転停止」の日は、虚空蔵堂が自家用自動車を確保し運転手を雇い入れて輸送にあたりました。虚空蔵堂の自動車は、営利目的の運転ではなかったので「堂専用自動車ハ区間運転ヲ無料」としましたが、乗車料金の支払いを「寸志」として申し出る乗客もおり、その場合は「車内備付ケノ慈善箱ニ随意投入セシムルコト」としました。信心あつい参拝者にとって、慈善箱への浄財奉納も作善（さぜん）の一つでした。（文中の敬称略）